

2024年2月14日

日本政府、チピング地区の保健医療提供を強化

山中晋一駐ジンバブエ日本大使は、日本政府を代表し、ダグラス・モンベショラ保健・育児大臣に救急車を引き渡した。この救急車は、日本が資金提供したマニカランド州の医療施設への救急サービスを提供するためのプロジェクトのもと、PCR 機材とともに調達された3台の救急車のうちの1台である。

この救急車は、2023年2月12日に最初のコレラ患者が報告されてから1年を迎えるにあたって、チピング郡病院における疾病調査と疾病管理の強化を支援するもの。同病院では、郡病院とムタレ州病院間の患者移送のため、信頼できる救急車を必要としている。2019年のサイクロン・イダイによる洪水や地滑りにより、遠隔地コミュニティへの劣悪な道路状態が、患者移送にあたっての課題となっている。

チピング郡病院は、チピング地区や隣接するモザンビークをカバーし、41万人以上の人口にサービスを提供しており、本プロジェクトでは、マニカランド州の険しくぬかるんだ道路を走破できる四輪駆動車を調達した。

「調達とは、単にモノやサービスを供給するだけではなく、開発目標を達成するために必要なリソースを確保することであり、人々に大きな影響を与える機会として捉えることができる」と、UNOPS ジンバブエ事務所の担当オフィサー、クレメント・ムランガ氏は説明する。

UNOPS は、日本政府に代わって車両と機器の調達を担当するとともに、機材等が十分に活用されるよう、検査技師、救急車運転手、救急車技術者の訓練を促進した。

「コレラの大流行とたたかう当国において、日本政府から提供されたこの資金が、公平で、適切で、利用しやすく、手頃な価格で、すべての人に受け入れられる質の高い保健サービスを提供するための保健・育児省の取り組みを強化するものと信じている」とムランガ氏は述べた。

日本政府は、特に保健分野においてジンバブエと緊密に連携している。「このプロジェクトが、マニカランド州における救急医療サービスの向上と、誰一人取り残されることのないユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成に向けたジンバブエ政府の取り組みに大きく貢献することを確信しています。」と、山中大使は引渡式で語った。



本使挨拶



本使からキウイディニ保健・育児副大臣に新しい救急車の鍵を手交



新しい救急車(トヨタ・ランドクルーザー)の前での集合写真